



高瀬中だより

校長通信 No.5

2021.9.13

「礼に始まり、礼に終わる」～リスペクト(尊敬)の心

校長 千秋 久宣

今年の夏の甲子園、いわゆる「第103回全国高校野球選手権大会」の決勝は、「智辯(ちべん)対決」としてずいぶん話題となりました。智辯学園高校(奈良県代表)と智辯和歌山高校(和歌山県代表)の対戦ということで、隣県同士、しかも兄弟校の決勝戦で、結果は智辯和歌山高校が9-2で勝利し、3度目の優勝を決めました。

さて、こうした注目とは別に、智辯和歌山高校の選手の優勝後の行動に、称賛の声が多く寄せられたのを知っているでしょうか。これまでは過去、優勝が決まると選手たちがマウンド(ピッチャーが投げている場所)に集まり歓喜の瞬間を迎える光景がおなじみなのですが、今回の智辯和歌山高校の選手は試合が終わるとすぐに整列をしたのです。試合後のあいさつを終えて校歌を歌い、スタンドの応援の人たちにあいさつを終えると、そこで初めて喜びを爆発させました。両校は、良きライバルであり、良き仲間であり、お互いの存在を認め合っているそうです。

智辯和歌山高校の宮坂キャプテンは、試合後のインタビューで、マウンドに集まらなかった理由を次のように答えています。

「礼に始まり、礼に終わるということ、全て終わってから喜ぼうと思っていた」
智辯和歌山高校がすぐに整列した姿勢は、相手チームへのリスペクト(尊敬、相手を重んじる)の証であるとTwitter等で多くの人から称賛の声が寄せられたということです。

今年の夏は、昨年中止された夏の高校野球甲子園大会だけでなく、インターハイ、全国中学校総体、そして、東京オリンピック・パラリンピック等々と多くのスポーツの大会が実施されました。中でも、テレビ放映の多かったオリンピックやパラリンピックの様子はみなさんも、まだ目に焼き付いていると思いますが、その中でどの競技も試合の開始は、「礼に始まり」試合の終わりは「礼に終わる」という行為がありました。勝ち負けはあっても、お互いを尊敬し、お互いの健闘を称える行動が数多く見られました。こうした光景は、スポーツの世界だけではなく、中学生のみなさんの一日を考えた時にも、登校時のあいさつ、授業の始まりと終わり、清掃の始まりと終わり、部活動の始まりと終わり等々・・・人と人が接する場面では常に頭を下げ、礼をしています。相手や使った場所への感謝、敬意、リスペクトの仕方は国によって違いはあると思いますが、「礼に始まり、礼に終わる」という日本の良き伝統は常に大切にされてきたのです。

今、体育祭練習にがんばっている生徒のみなさんへ

「『礼に始まり、礼に終わる』～リスペクト(尊敬)の心」をお互いに大切にしましょう。